

試 験 地 設 定

区分 **任意**

宮 崎 営 林 署

(様式1)

開発課題	松くい虫被害の予防法				期間	自56年度 至58年度	
開発目的	薬剤による予防散布区域外の激害地におけるマツノマダラカミキリの生育密度の減少策						
設 定	場 所	営 林 署	担 当 区	国 有 林	林 小 班		
		宮 崎	宮 崎	前 浜	94 は. 31		
	数 量	面 積	数 量				
		マツ丸太 取1.5mを4~12cm	72本 0.671m ²				
	設 定 年 月 日	58.7.1		終 了 年 月 日	58.7.28		
	担 当	営 林 局	課 係				
		営 林 署	経 営 課 造 林 係				
地況及び 気 象	標 高	方 位	傾 斜	基 岩	土 壌 型	土 性	
	10	E	平	砂岩		崩積土	
	深 度	堅 密 度				地 位	
						スギ ヒノキ	

林	林 令	林 種	樹 種	混交率	胸高直径	樹 高	材 積	本 数	相対照度	下層植生
	44~100	人工林	アロマツ	100						
況	設定前の施業経緯									
	海岸保安林のうち薬剤散布が実施できない区域で毎年被害木を伐倒駆除のみで処理されてきた。									
全 体 計 画 面	1. 被害木減少策の検討 2. 誘殺施設設置と殺虫									

- 記載要領
1. 区分は指示、自主、任意課題別とする。
 2. 全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、林試等の指導関係を記入する。

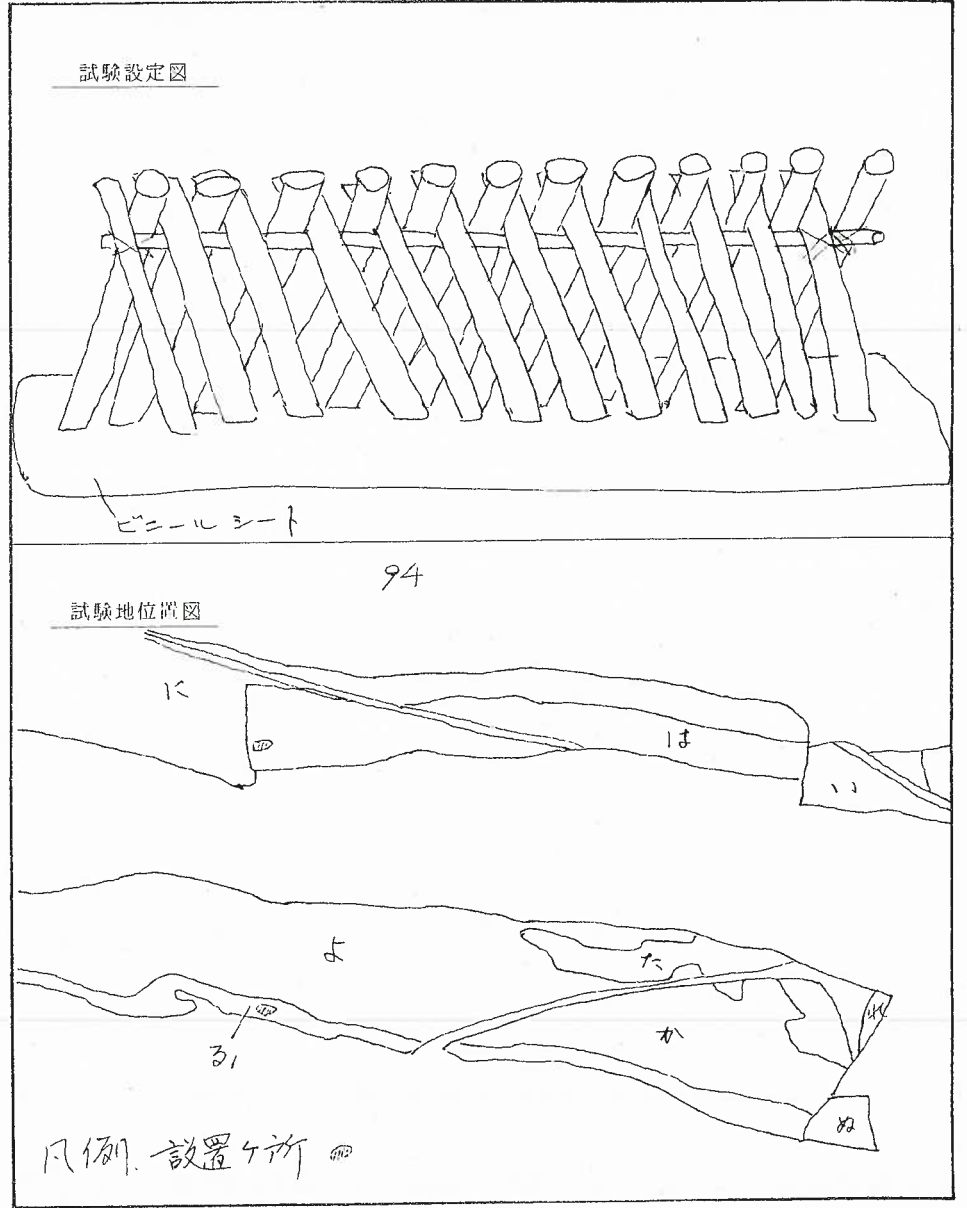
試験地設定

区分 任意

官 崎 宮 崎 管 林 署

(様式2)

実 施 計 画		
1. 既往の被害データの集約とマダラカミキリの発生予察結果から施設設置時期、場所方法を検討し準備作業を完了。		
2. 材料 フロマツ丸太		
径	長	数量
4cm	1.5	2本
5	"	10
6	"	9
7	"	8
8	"	13
9	"	17
10	"	10
11	"	1
12	"	1
計		72
3. 薬剤		
T.7.5 ダイヤエタン乳剤20倍液		
72本に原液0.6ℓ 稀釈液12ℓ		



記載要領 1. 実施計画は設定方法及び作業方法等具体的に記入する。

試験経過記録

区分 任意

宮崎 宮林署

(様式4)

S. 58. 7. 1 餌木設置 設置場所 941, 943, 林小班

餌木 長さ 1.5m 径 4~12cm

薬剤 D.75. ガイエタン乳剤 原液 0.6ℓ 稀釈液 12ℓ

誘殺状況 年月日、マダラカミギリ、ノコカミギリ、ゾウムシ類 計

58. 7. 7	99	89	9	197
7. 14	53	18	6	77
7. 22	26	5	0	31
7. 28	9	2	0	11
計	187	114	15	316匹

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

評価および普及計画

区分 任意

宮崎 営林署

(様式5)

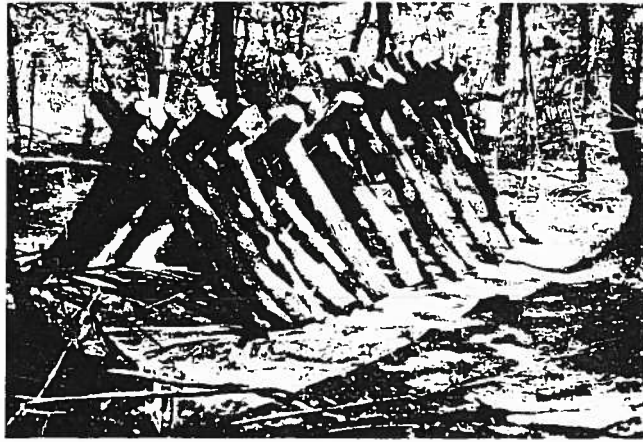
1. 餌木設置後2週間以内の集中する。
2. 設置場所、時期など更に要検討
3. 餌木周辺の被害木多発の傾向。

状 況 写 真

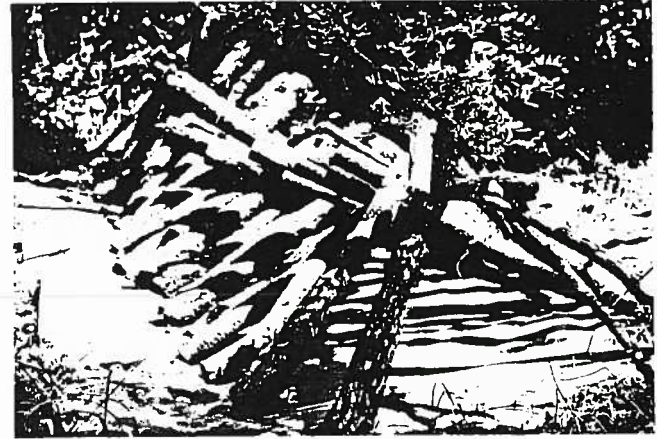
区分 任意

宮 崎 營 林 署

(様 式 6)



餌木設置、前溪国有林、94は林小班



明神山国有林94る、林小班



合 工

技術開発課題完了報告書

課題名	松くい虫被害の予防法					
課題区分	任意	開発期間	昭和56 ～58年度	担当	宮崎営林署	
目標	薬剤による予防散布区域外の激害地におけるマツノマダラカミキリの生育密度の減少策					
結果	1. 餌木設置後2週間以内に集中する。 2. 餌木周辺に被害木多発の傾向がある。					
施 業 及 び 作 業 の 内 容	項目	内 容	項目	内 容	項目	内 容
	伐採の方法					
	樹種					
	林齢	年				
	胸高直径	cm				
	樹高	m				
	haあたり本数	本				
	材積	m ³				
<u>開発経過と調査内容</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤による予防散布が困難であり、例年被害が多発する区域の被害の減少を図るため、マダラカミキリの誘殺手段の検討と効果的な餌木、設置場所を決定する。 2. 既往の被害データの集約とマダラカミキリの発生予察結果から、餌木設置時期、場所、方法を検討する。 3. マツ生木長さ1.5 m、径4～12 cm、1セット36本をマツ林内2箇所に餌木として設置 						

し、下記結果を得た。

- (1) 使用薬剤 T-7.5 ダイヤエタン乳剤 20 倍液
原液 0.6 ℓ 希釈液 12 ℓ
- (2) 誘殺状況 (昭和58年7月1日餌木設置)
別紙のとおり。

評価及び普及指導

1. 餌木設置後2週間以内に集中する。
2. 餌木周辺に被害木が多発する。
3. 設置場所，時期など更に検討を要する。

松くい虫被害の予防法

1. 課題設定

一ツ葉海岸保安林一帯は県有保安林と共に潮害、及び飛砂防止林として、又美観の一環として重要な役割を果している、しかしながら、この保安林地帯はクロマツの一斉林のためマツクイムシによる被害も相当な数量である。そこで予防策として毎年薬剤による空中散布や、地上散布が行われているが、保安林や隣接する農耕地や人家も多く、その附近の散布は除外しなければならない。そのため、当然被害木はこの無散布区に集中することになる。この無散布の被害を少しでも少なくする目的でこの課題を設定した。

2. 試験構想

マツノマダラカミキリが幼虫から成虫になって飛立つ6月頃は主にマツの新梢を食害するが、その後ザイセン虫により被害を受け生木が段々衰弱して行く過程の材に好んで産卵に集る習性を利用して、マツの生木から長さ1.5 m程度の原木に殺虫剤をかけた、餌木を作り誘殺するものである。

3. 実施要領と結果

- (1) 使用材料 マツ生木丸太 材長1.5 m 未口4~12 cm 72本 (餌木)
- (2) 殺虫剤 T-7.5ダイアエタン乳剤20倍液 原液0.6 ℓ 稀釈液12 ℓ
- (3) 設置場所 前浜国有林 94は、 94る₁ 林小班 2箇所
- (4) 誘殺状況 (設置年月日、昭和58年7月1日)

調査年月日	マツノマダラカミキリ	クロカミキリ	ゾウムシ類	計
昭和58年7月7日	99 ^匹	89 ^匹	9 ^匹	197 ^匹
“ 7月14日	53	18	6	77
“ 7月21日	26	5	0	31
“ 7月28日	9	2	0	11
計	187	114	15	316

4. 考 察

- (1) 餌木設置後1～2週間に集中し、20日を過ぎると殆んど集らない。
- (2) 試験後餌木を設置した周辺の立木に被害が多発した。

5. 問題点と今後の課題

- (1) 餌木がマツ生木であるため設置数が多くなると入手が困難となる。
- (2) 餌木設置周辺に被害が多発する傾向があるので、マツ林外か空地に設置する必要があるが林外は場所的に問題がある。
- (3) 餌木の問題、設置場所の問題等総合して最少の経費で最大の効果のあがる方法を見出したいが、そのためには実験の規模を拡げ回数を重ねる必要がある。